

単元の評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	平面図形の決定や合同の意味を理解し、図形を構成する要素に着目して、合同な図形を作図することができる。	図形の決定や合同という観点から既習の図形の性質を考え、構成要素に着目して、図形が一つに決まる条件や合同な図形の作図の仕方を考えたり説明したりしている。	図形の決定や合同について考察する過程やよさを振り返り、学習したことを今後の図形の学習や生活に生かそうとしている。
時	主な学習内容	学習を関連付ける着眼点	各時間の評価規準 (主に□の評価を記録する)
7	単元の学習を振り返り、「図形が決まる」とはどういうことかを省察する。頂点の位置が決まることで図形が一つに決まることを確かめ、辺の長さや角の大きさ、対角線など、頂点の位置を決めるために構成要素にどのように着目したかを考える。		☐ 【思・判・表】単元の学習を振り返り、図形の構成要素に着目して、頂点の位置が決まることで図形が一つに決まることを整理し、説明している。 ☐ 【態度】図形が決まることや合同についての学習を振り返り、学習したことを今後の図形の学習や生活に生かそうとしている。
6	四角形を対角線で分けることで三角形が2つできることをもとに、四角形の辺の長さや角の大きさ、対角線等に着目し、四角形を一つに決められることを捉える。		☐ 【思・判・表】四角形の頂点の位置に着目し、合同な三角形のかき方をもとに、合同な四角形のかき方を考えたり、説明したりしている。
5	合同な三角形を作図する過程を考察し、作図に必要な条件（決定条件）を調べる。辺の長さや角の大きさに着目して、3つの方法で合同な三角形を作図する。		【知・技】三角形の合同条件を理解し、その条件を用いて合同な三角形を作図することができる。 【態度】三角形を一つに決めるための条件について、作図した結果を振り返りながら、よりよい条件を見いだそうとしている。
4	合同な図形（正方形、ひし形、三角形）をかくために、それぞれの図形が決まるために必要な条件を考える。辺の長さや角の大きさ、対角線などの構成要素に着目し、頂点の位置が決まることで図形を一つに決められることを捉える。		【知・技】正方形、ひし形、三角形などの図形について、辺の長さや角の大きさ、対角線などの構成要素に着目して図形が決まることを理解している。 ☐ 【思・判・表】図形を構成する要素に着目し、どのような情報があれば頂点の位置が決まり、図形を一つに決められるかを考え、説明している。
3	既習の四角形を対角線で分けてできる三角形に着目し、対応する辺や角の関係を比べながら、平面図形を合同の観点から捉え直す。		☐ 【思・判・表】既習の四角形を対角線で分けてできる三角形に着目し、対応する辺や角の関係を比べながら、四角形の特徴を合同の観点から考えている。 【態度】既習の図形の性質と合同の学習を関連付け、図形を合同の観点から捉え直すそうとしている。
2	図形を移動させたり重ねたりする活動を通して、合同の意味を理解する。また、合同な2つの図形の頂点、辺、角の対応を調べ、対応する辺の長さや角の大きさが等しいことを理解する。		☐ 【知・技】合同の意味を理解するとともに、合同な2つの図形の対応する頂点、辺、角を見付け、対応する辺の長さや角の大きさが等しいことを理解している。 【思・判・表】図形を移動させたり重ねたりする活動を基に、合同な図形の対応する構成要素に着目して、合同な図形の性質を考え、説明している。
1	トラス橋の構造に着目し、辺の長さが決まっているとき、三角形は形が変わらないという特徴に気付く。三角形と四角形を比べながら、「図形が決まる」とはどういうことかを考える。		【思・判・表】三角形と四角形の違いを比べながら、辺の長さが定まっているときに三角形が形を保ちやすい理由や「図形が決まる」ことについて考えている。